

米国テクノロジー株の投資環境と当面の市場見通し

米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)

追加型投信／海外／株式

2022年2月1日

足元の投資環境

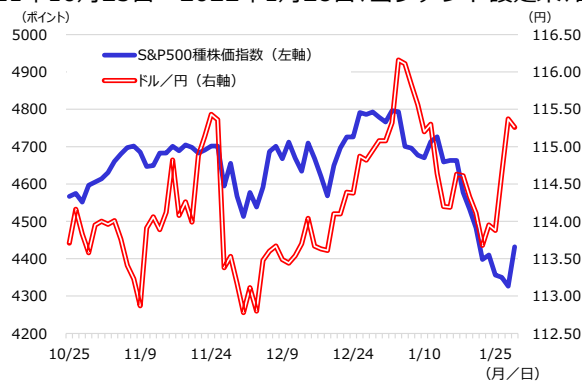
【金融引き締めと金利上昇への警戒感から軟調に推移】

1月の米国株式市場は、月初に主要株価指数が過去最高値を更新した後、米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨で早期利上げの可能性が示唆され、金融引き締めや米国債利回り上昇に対する警戒感が高まりました。テクノロジー株などグロース銘柄は、昨年に株価が総じて上昇したことから、利益確定の売り圧力を受けて下落する展開が続きました。

為替（ドル/円）は、月初に海外金利の上昇を受けて円売りが優勢となった後、株式市場の下落とともに投資家がリスク回避姿勢を強め、中旬から下旬にかけて円買い圧力が強まりました。月末にかけては、株安進行に一服感が出る中、円売りの動きが見られ、ドル/円は反発する展開となっています。

図表 1. S&P500種株価指数とドル/円の推移

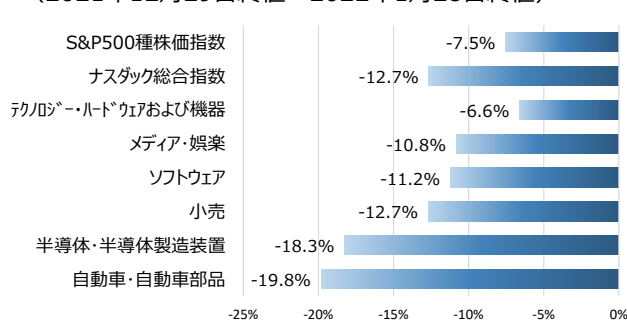
(2021年10月25日～2022年1月28日、当ファンド設定来、日次)



(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

図表 2. 年初来の主要セクターの騰落率

(2021年12月29日終値～2022年1月28日終値)



※セクターは、GICS基準（世界産業分類基準）で表示しております。

(出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

当面の株式市場の見通しと運用方針

1月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、3月の利上げ開始が予告されましたが、投資家の関心が高かった利上げの幅や今後のペースについては、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長が直接的な言及を避けました。これを受け、金融市場では「利上げ幅やペースは今後の経済指標次第で決まる」という極めて当たり前のことが再認識されており、その為、今後は経済指標の結果次第で市場の変動性が高まりやすいたことが予想されます。運用チームでは、足元にかけての株価調整が、タカ派寄りのFRBの市場環境に適応するための局面と捉えています。投資先ファンドでは、過去も金利上昇で変動性の高い局面を経験していますが、**金利上昇サイクルを通して概ねプラスのリターンとなっております。****短期的には金利変動の影響があるものの、長期的には企業の収益が主要なパフォーマンスの源泉になると考えています。**

今後も金融政策や景気見通しの不透明感が続き、株価の変動性が高まることが予想されるため、投資先ファンドでは強固な収益基盤を持つと考える銘柄を中心にポートフォリオを構築しています。また、市場の調整局面は割安となった銘柄を組み入れる良い投資機会であることから、市場の期待が行き過ぎていると考える銘柄を売却するとともに、魅力的なファンダメンタルズを持ちながら割安となった銘柄を組み入れるなどの調整を行っています。**依然として、テクノロジー・セクターの長期的な成長はとどまることがなく、高い成長が期待される魅力的な企業が多く存在するとの見方は変わっておりません。**

※本資料の株式市場見通しは、2022年1月31日時点におけるJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの見解を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

本資料では「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)」「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジなし)」を総称して「当ファンド」といいます。投資先ファンドはルクセンブルグ籍外国投資法人「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」(外国籍、日本での取扱いはありません。)であり、当ファンドはそのシェアクラスである「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て、円ヘッジ)」 「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て)」に投資します。

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

**米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信／海外／株式**

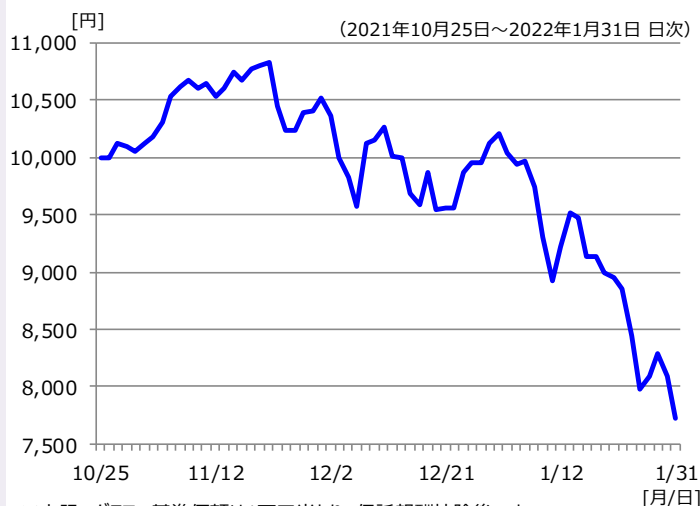
【ファンドの基準価額】

当ファンドの1月31日の基準価額は、為替ヘッジありが年初来で2,308円安（▲23.0%）の7,724円、為替ヘッジなしが同2,300円安（▲22.7%）の7,831円となっています。

※1月31日の基準価額には、米国現地28日までの動きが反映されています。なお、投資先ファンドは取引時間中の価格で評価を行っているため、引値ベースの動きとは異なる点にご留意ください。

為替ヘッジあり（作成基準日 2022年1月31日）

基準価額の推移



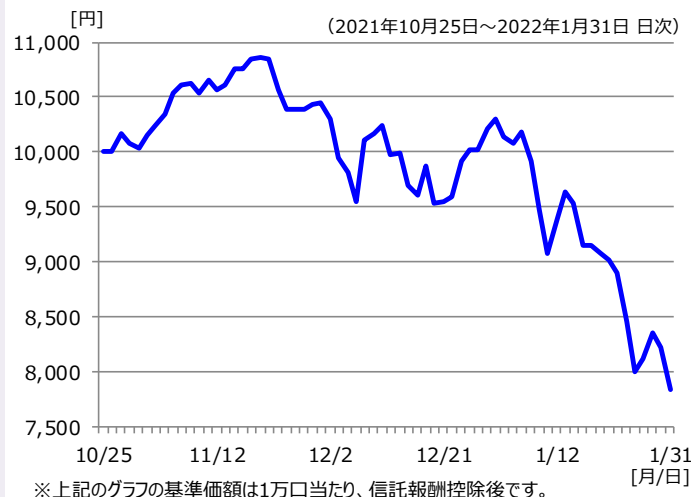
ファンドデータ（1月31日現在）

基準価額（円）	7,724
残存元本（百万口）	3,697
純資産（百万円）	2,856
ポートフォリオ構成比率（1月31日現在）	
JPモルガン・ファンズーUSテクノロジーファンド（イラス）（円建て、円ヘッジ）（%）	96.4
マネー・リクイディティ・マザーファンド（%）	0.2
短期金融商品その他（%）	3.4

（出所）社内データ

為替ヘッジなし（作成基準日 2022年1月31日）

基準価額の推移



ファンドデータ（1月31日現在）

基準価額（円）	7,831
残存元本（百万口）	64,596
純資産（百万円）	50,582
ポートフォリオ構成比率（1月31日現在）	
JPモルガン・ファンズーUSテクノロジーファンド（イラス）（円建て）（%）	97.3
マネー・リクイディティ・マザーファンド（%）	0.2
短期金融商品その他（%）	2.5

（出所）社内データ

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

（作成：運用本部）

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信／海外／株式

米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)に関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「信用リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。
- ※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品、金融債、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

＜お客様が直接的に負担する費用＞

- 購入時
 - 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

- 保有期間中
 - 運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.298%（税抜1.18%）
 - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
：純資産総額×年率1.948%程度

実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)